

# ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.20 2007年11月

国際イベントへの協力	「IAAF世界陸上2007大阪」開催に協力、ボランティアに参加	2
	「IAAF世界陸上2007大阪」ボランティア委員に参加して	2
	世界陸上ボランティア奮戦記	3
	世陸ボランティア奮闘記	3
ODA関連	日本とインドネシアの架け橋を目指して—国際協力に求められるABIC的人材	6
	ビクトリアの滝と銅の国、ザンビアで技術指導の2年間	7
自治体・中小企業支援	地方自治体・中小企業支援業務 あれこれ	8
教育	2007年度大学・エクステンションセンター等講師勉強会を開催	9
	園田学園女子大学 シニア専修コースでの講座、3年目を迎えて	10
	新設の「環境講座」で講義—学外見学の概要	10
	シニア専修コース講座講師体験記	11
	関西学院大学、青山学院大学とのABIC高大連携プログラム（国際理解教育） 「日米高校生の交流の集い」	11
	関西学院大学（産学共同）高大連携講座	13
留学生支援	交流館秋のフェスティバル2007	14
ABICへのメッセージ	異文化の水先案内人	5
私のボランティア活動	日本での歩み	15
書評	『預言者ムハンマド』	14
事務局だより	ABIC会員懇親会を開催 「高齢者雇用フェスタ2007」に出展	13 12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)  
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内  
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979  
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】  
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 413号室  
Tel & Fax : 06-4395-1188  
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

## 国際イベントへの協力

# 「IAAF世界陸上2007大阪」開催に協力、ボランティアに参加

8月25日から9月2日の9日間にわたり「IAAF世界陸上2007大阪」が大阪の長居陸上競技場にて開催された。ABICはこの大会開催に協力し、2006年度より組織委員会のボランティア委員に就任した藤原照明会員（元丸紅）とボランティアコーディネーターとして大阪大会組織委員会経由で登録の赤田堅会員（元丸紅）、藤井眞会員（元丸紅）、大北充吉会員（大阪大学院生）の4名が大会開催準備段階から終了までの1年半にわたりそれぞれボランティア活動に尽力した。また選手村でのチームアタッシャ（選手団付担当）として野村哲三会員（元三菱商事）、大隅国雄会員（元伊藤忠）の2名が語学対応ボランティアとして活躍した。以下は、藤原会員、赤田会員、野村会員から寄せられた活動のレポートと感想である。

## 「IAAF世界陸上2007大阪」ボランティア委員に参加して

ふじわら てるあき  
藤原 照明（元丸紅）

世界200余の国と地域より約3,000名の選手代表団が集まり開催された大阪では近年にない大きなイベント「第11回IAAF世界陸上競技選手権大阪大会」（IAAF World Championships in Athletics）が、8月25日から9月2日までの9日間、長居陸上競技場で行われたのは記憶に新しいところである。（IAAF：International Association of Athletics Federations、国際陸上競技連盟）

世界陸上は、1983年ヘルシンキの第1回が始まりで、4年に1度開催されていたが、1991年東京大会以降は2年に1度となり、オリンピック、FIFAワールドカップと並ぶ世界3大スポーツイベントの一つとして数えられている。日本での開催は1991年の東京大会以来16年ぶりである。

ABICは、この大会に2002年サッカーワールドカップでの通訳ボランティア実績を買われ、昨年春、大会の「ボランティア委員」として大阪大会組織委員会より正式に指名を受け、活動に参加することとなった。

当初は関大阪市長はじめ吉本の笑い芸人や、棒高跳の沢野選手、短距離の末次選手、走り幅跳の池田選手などの有名選手ほか、関係者が多数参加して賑やかなパーティが開かれるなど陸上競技に全く知識もないまま我々も大いに盛り上がり、委員会も順調に走り出した。

ボランティア委員はABICのほか体育大学の陸上競技専門家および大学教授など強力なメンバーで構成され、その活動の第一歩はボランティアの核となる80名のリーダーを選別することから始まり、幅広い広報活動が開始された。

しかし、ボランティアリーダー（後にボランティアコーディネーターと呼称変更）応募者は委員会の当初の目論見

を大きく下回る18名のみ（内ABIC会員および関係者は4名）と船出は決して順調なものとは言えず、委員会ではリーダーはじめ一般ボランティアを含む募集に本格的に奔走することになった。

我々ABICは、関西の有名大学での講座担当の実績を活かして、各大学に組織委員会の担当者と共に訪問し、ボランティア活動参加と協力を依頼した。しかし、大会期間中の9日間だけなら問題は少ないものの、大会開催までの約1年半の間、相当回数の事前打合せに出席せねばならないなど活動内容は結構厳しく、交通費も出ないという多くのボランティアであった。したがって外国語のできる日本人学生あるいは日本語のできる外国人留学生の応募を求めるのは容易ではなく、当初の目論見とは異なり、順調とは言えない状況に直面した。

その後、関係者の懸命な努力により全国および外国からのボランティア希望者も集い、一時はそこそこ順調に行くかに見えた時期もあったものの、度重なる研修に加え、具体的に仕事の分担を決める段階になると、当初希望の活動内容と組織委員会から割り振りされた活動内容との思いの差が出てきたり、希望勤務時間帯の思い違いなどの問題が頻発した。大会の始まる8月に入てもフランス語、ロシア語のボランティアが多数不足するなど開催間際までバタバタしたのが正直なところであった。



外国語追加ボランティア募集についての打ち合わせ 筆者（左から2人目）

しかし、最終的には関係各位の総力を結集し、ボランティア登録数約6,000名になり、ご承知の通り無事に大イベントを終えることができた。このような世界的なイベントが今後身近なところで発生する可能性は極めて低いが、今回の貴重な経験を今後の国際社会貢献に活かしていければと願っている。

## 世界陸上ボランティア奮戦記

あかだ たけし  
赤田 堅 (元丸紅)

まずクイズです。下記の中で3項目答えられた方は相当な陸上通です。①トラック競技で中距離はmiddle distance、長距離はlong distance、では短距離は？ ②競技名：Steeplechase、PoleVault、ShotPut、Heptathlonは？ ③世界陸上の入賞者には賞金が出る。優勝は？ ドル。(正解は文末参照)

年初来ABIC活動会員の藤井眞さん(元丸紅)、大北充吉さん(大阪大学院生、来春より三井物産勤務)と共に18名のボランティアコーディネーターの一員としてボランティア・ハンドブックの作成、ボランティア募集の手伝い等々の事前準備作業に、平日は午後7時から9時半まで、土・日は半日あるいは終日、また直前には容赦なく蚊の押し寄せる中、ユニフォームの配布作業等にも携わってきた。

この18名は、ボランティア精神の真髄を極めた志の高い人達であった。過去の国際イベントでのボランティア経験も豊富で、本来80名分の仕事量を18名で質量両面においてカバーし、関係者からも高い評価を得た。

大会期間中、藤井さんはADカード(Accreditation Card)、大北さんはドーピング部門、私は選手村の一つがあるホテルでのTDI(Technical Information Center)に配属となった。同ホテルにはイタリア、ルーマニア等11カ国383名の選手団が宿泊。ブラジル、キューバ、ボリビアはスペイン語で、残りは英語で応対。日本陸上競技連盟(陸連)から派遣された二人の専門家(元陸上選手で現在も審判員として活躍)の通訳業務である。文字通り技術的諸点の総括であった。

2点のみエピソードを下記する。

その1：8月23日に試合で使用するユニフォームの写真撮影をした。これにバスしたユニフォームでなければ競技場では使用できない。具体的にはスポンサーの商標のチェックである。スポンサーは当然自分の商標を少しでも大きく表示したがる。そこで数ミリ単位で大きさが超過するものが出てくる。選手団役員は使用しているうちに伸びたもので、新品の時には範囲内であったと主張。ならば新品を持ってこいと要求すると持ち合わせがないといった駆け引きがあり、(内心では選手団に好意を持つつ) 通訳していく。

その2：ある日の午前11時前に見慣れない人達が現れ、「昨日、選手会代表を選出する選挙の詳細が決まり、3日間、毎朝8時から午後2時に各選手が自分達の代表を選出する選挙が行われるが、このホテルでは何の準備もされていない。責任者を出せ」とえらい剣幕。我々はこの様な話は一切聞かされていなかった。そもそもTDI業務とは関係ないことであるが、聞けば組織委員会の手落ちであり、主催国の一員として私は知らないでは済まされない問題である。陸連の二人から直ぐ本部に連絡を取り、一時間後、無事解決した。後日談だが、陸連の知り合いに茶飲み話として話したところ「お前が応対した国際陸上競技連盟の幹部はナンバー3の偉いさんで、こじれていたらえらいことになっていた」と変な慰めを受けた。

私のシフトは午前6時から午後3時まで、後は日系ノルウェー人が交代してくれた。彼女はロンドン在住で外見上は全くの西洋人であるが、英語のほか日本語とスペイン語は問題なく、性格が底抜けに明るく仕事場の雰囲気はとても良かった。陸連のお二人もさすがスポーツマンで楽しく業務をやらせてもらった。

午前6時に間に合うためには4時起きで始発の電車で通う。エスカレーターは始動前であり、梅田からホテルまでは20分余り地下道を通らねばならない(信号のある地上では集合時間に間に合わない)、冷房はもちろんない。キヨスクもまだ開店前で、我がタイガースが勝ってもスポーツ新聞は買えなかった。

【クイズの回答①Sprint Events、②障害物競走、棒高跳、砲丸投、7種競技、③優勝は60千ドル、世界記録には更に10万ドルのボーナスが出る。以下単位は千ドル。2位以下30、20、15、10、6、5、4、つまり8位は4千ドル。以上は世界陸連から出るいわばオフィシャルな賞金で、実際にはこの何倍もの賞金がスポンサーから各選手に支払われることとなる。】

## 世陸ボランティア奮闘記

のむら てつぞう  
野村 哲三 (元三菱商事)

酷暑の大阪でなぜボランティアを：関西ホスピタリティ発揮の場であり、またトップアスリート接遇のスリル、ボランティア組織の研究、仲間と出合う楽しみもあり応募。いくら貰ったのかとよく聞かれるが、貰ったのはユニフォームと食事券1日600円。選手団受け入れから送り出しまでの15日間を、自弁で現場に連泊して一貫性の奉仕をした。

どんな仕事をしたか：①宿泊・輸送 ②競技運営 ③選手団付アタッシャの3分野があり、競技は午前と夕方・夜間に集中。9:00~15:00「早番」と15:00~23:00「遅番」に分れる。私は、選手村で94名フランスチーム付「遅番」。



Team France Officeの前で筆者



開会式 日本選手の入場

英語OKだがフランス語もちょっぴり役立つsolution providerで昔の経験が正に生きる役割。ボランティア仲間は学生、自由業、有給休暇のサラリーマン、語学教師、主婦、企業OBと多彩であった。

**困ったサン対応**：担当外の「困ッタさん」の助っ人もする。情報不足でイライラする来訪者に笑顔でやさしく繋ぐ。「日本はいま暑いでしょう！ 選手の健康は大丈夫ですか？ いま頃お国の気候はいかが？」。フィンランド人「これまで四国でトレーニングしてきたので暑さには慣れました。本国では通常23℃までですが今年は30℃まで上がりglobal warmingが心配！ ところでさっきの回答はまだですか？」とイライラする。「はいはい、もう直ぐ回答が出ますよ。ご辛抱に感謝です！」と言ってニコ～っとするsmoother役。

**いよいよ開会、我がチーム・フランスは**：総領事歓迎会で気勢を上げる。天皇陛下の開会宣言で競技の号砲、肃々と進行する。忙しくなりアタッシェ間の引継ぎ「ホウレンソウ」にパソコンで作業を始めると、隣のデスクから「こちらが先だ！」とにべもなく割り込まれ、何と肩身の狭いこと！ でも仲間10人は親密度も深まる。

**選手が怪我をした**：7種競技で選手が怪我をした！ チームドクターを現場へ急行させ、現場医務室へも電話しようとしたがとっさに番号が分からぬ。周りに聞くが誰も知らない。自分のメモから上級役員へ直接電話して急場は上手く凌げた。本人は車椅子での帰国となつたが、何とさつき尋ねた隣の班長から、「なぜ直接役員に電話したのか！ 私があとで叱られる。出過ぎたことをしてもらうと面子がなくなる！」と強く苦情。あれ～っ！ それってとても変な話だ!!

**ホテルで短パンツ選手がたむろしては困る？**：選手村ホテルでの話。「フランス選手3人が短パン姿で床にしゃがみ

込まれては見苦しい！ 排除せよ！」とホテル論理の凄い剣幕。騒ぐでもなし、静かにしゃがんでパソコンタイム。椅子を用意するようアドバイス。スポーツ選手が短パンやしゃがみ込むのは普通。競技前の選手は神經ピリピリ、ホテル論理で怒ったような「直訳」をしては角が立つ。通訳が通訳をしなかった話。そのほか次々問題が起つたがすべて解決。

**大会は見事に終結！**：鍛え抜かれた肉体美のアスリートが、より速く、より高く、より遠くを競つたが、連日の酷暑で有力選手が倒れる。大会新がやつと2つ。順位は、1位米国、2位以下ロシア、ケニア、ジャマイカ、ドイツ、英国、中国と続く。日本は頑張った女子マラソン土佐礼子の銅メダルと入賞6人で19位と振るわす。我が「フランス」は銀メダル2個と入賞8人で12位。役員は成績が悪かったと嘆く。「次ぎですよネ、次ぎ！」と慰めるのが精一杯。

**総括volunteerism**：近年volunteerismは飛躍的に進化し、組織論も研究された。しかし現場の大混乱は常に起きる。効率・活性化するセンター機能はいつも大事。ボランティアは礼節と円満な常識が大事。少々英語が出来ると尊大無礼になりやすい。「電話ゲーム」式の情報伝達も困りもの。訂正情報が頻発され外国人には大迷惑、大ひんしゅく。よかつたことも多々あった。問題が起つるとシニアの知恵で若者が感心、新鮮な勉強になったようだ。素敵な人にもたくさん会えた。ついでにABICへの加入も推薦した。

**最後に**：閉会式もオリンピックと異なり、シンプルに終了。information caring and sharing spiritで大仕事が終わった。空席が目立つスタジアムへ「近隣の学校の生徒たちにもっと無料開放したら良かったのに」との声しきり。4,200人のボランティアは出場選手と同じ「大会感謝状」をもらい大満足。お疲れ様でした！

# ABICへのメッセージ

## 異文化の水先案内人

株式会社インテック・ジャパン

代表取締役社長 可児 鈴一郎



突然、海外赴任が決まった。見知らぬ土地で、果たしてうまくビジネスを遂行できるのか…。

そんな不安を解消するお手伝いをさせていただいているのが、弊社が実施している「海外赴任前研修」です。

受講対象者は主に大企業の幹部社員。ほとんどの方が日本では役員経験がなく、いきなり現地法人の社長として、法務や労務管理など専門外のことにも対処しなければならないのですから、不安は大きいはずです。

そこで講義は、講師1名、受講者1名のマンツーマン方式で実施。赴任国についてのマネジメント上の法律問題から経理・税務、人事労務管理やリスク管理まで、赴任される方が事前に知っておかないと必ず役に立つ知識を、1~2日で集中的にマスターしていただく完全オーダーメイドスタイルの研修となっています。

この研修が商社OBの方からも「現役時代こんなキメ細かい研修を受けられたらどれだけ助かったか」と言っていただけるのも、ABIC抜きでは語れません。日本とビジネス交流がさかんでない国についてのご依頼があったときでも、幅広い国々の赴任経験者を多数登録メンバーとして抱えておられるABICにお願いすれば、最適の方を派遣していただけるからです。

弊社が講師の方々に特に望むことといえば、まず第一に、受講者の方には、失敗談も含めたご自身のご経験をお話ししていただくことでしょう。

政情やその国の文化・国民性などについての概論は、書籍やネットで調べればある程度のことはわかります。しかし、実際に現地にビジネスで赴任した人がどんな場面で苦労しやすいか、あるいは失敗しやすいかといったことは、同じ立場でご経験された方にしか

わからないものです。その点をご自身の貴重な体験を元にお話しいただければ、これからその国に赴任される方

にとっては、ドンピシャリの実用的な情報となるでしょう。

第二に、講師の方には、赴任国との文化を尊重したスタンスを堅持していただきたいということです。

赴任国についての留意点を伝える場合、日本人の価値観からみたネガティブな要素が加わりがちです。たとえば「現地の人は日本人より教養がないので手取り足取り指導しないといけない」といったふうに。

残念ながら、そのような姿勢では、現地の人とうまくやっていけないかもしれません。なぜならば、相手を尊重しないと信頼は得られないからです。

現地に長く駐在され、その国の文化に愛着をもっておられる講師のお話には、相手を理解し尊重しようとする姿勢をお持ちのため、現地の人とうまくつきあっていくためのヒントがふんだんに盛り込まれています。

現地の人の信頼を得ることが、海外でのビジネスの第一歩であり、そのためには何より謙虚さは欠かせません。その点さえ心掛けてご指導いただければ、海外赴任者にとっては、このうえもなく心強い「水先案内人」となるはずです。

赴任された方が現地の人と信頼関係を築くことは、日本人の国際的評価を高めることにもつながります。それこそが、私たちがめざす国際交流ではないでしょうか。

## ODA関連

## 日本とインドネシアの架け橋を目指して —国際協力に求められるABIC的人材

インドネシア商工会議所執行部特別顧問

おがわ ようじろう  
小川 洋志郎（元兼松）

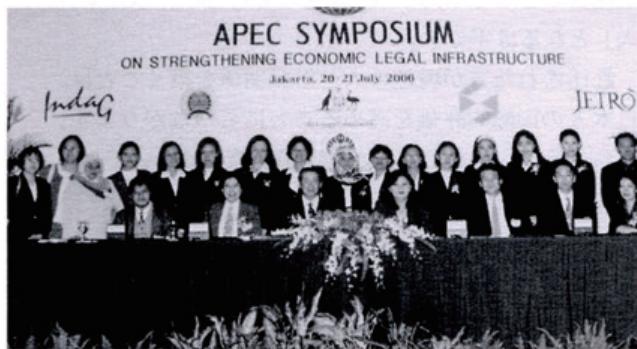
インドネシア商工会議所（KADIN : Kamar Dagang dan Industri Indonesia）執行部特別顧問としてKADINに席を置いてから、約2年半になる。ABICの推薦を受け、JETRO専門家として赴任したが、KADIN内に席を置くのは日本人としては勿論、外国人としても小職が初めてであったこともあり、赴任



当初の数ヵ月は、正直言って相当面食らったと言うのが実感である。幸いにして今では、ヒダヤット会頭はもとより、14人の副会頭、各種委員会、各種産業団体など、KADIN関連主要人物の多くと気軽に意見交換ができる間柄になっている。

一般的にKADINは、KADIN内閣と揶揄される程、インドネシア政府に対しても、国民に対しても、大きな影響力を持っている。政府や公的機関に裏切られ続けてきた国民は、彼等に対しては、「もう二度と騙されないぞ」と言う強い警戒心を持っているが、KADINに対しては、かなりの信頼感と期待感を持っている。そのため、政府はKADINを通して国民の理解を得ようとし、逆に国民はKADINを通して政府に意見具申するケースが多く見られる。

その結果、例えばAPEC、WTO、JIEPA（日イン経済連携協定）、インフラ・サミットなど、本来であれば政府が単独で実施せねばならない事業にも、KADINが関与せざるを得ない状況が生まれている。そのため、殆どの政策について、政府からも、国民からも（マスコミを通じて）、KADINとしての意見（コメント）を求められるケースが極めて多いのが実状である。



APECシンポジウム実行委員会事務局長として 筆者（中央）



ビジネス・フォーラムにて 関係者と（筆者左から3人目）

このような中で、小職がKADIN内で関与している業務は多岐にわたっているが、主なものは貿易・投資委員会、国際協力委員会、中小企業委員会、農業委員会、エネルギー委員会、環境委員会、日・イン経済協力委員会、政策提言チーム、経済・統計分析チームなどに関連した業務である。具体例で言えば、本年8月20日、安倍総理（当時）、並びにユドヨノ大統領列席のもとに実施した日本・インドネシア・ビジネス・フォーラムなどが挙げられる。このフォーラムは、KADIN、日本経団連、日本商工会議所、JETROの共催で実施したが、KADIN側では、日・イン経済協力委員会がフォーラム当日の議事進行を、国際協力委員会が正副大統領および諸閣僚のプロトコールを、貿易・投資委員会がJIEPA関連の業務を担当した。それらを統括したのがヒダヤット会頭だが、小職は会頭との折衝も含むこれら全ての業務に直接的・間接的に関与した。

その後、9月6日にはロシアのブーチン大統領、インドネシアのユドヨノ大統領の列席のもとKADINとロシア商工会議所主催のビジネス・フォーラムを実施、小職も国際協力委員会の一員として間接的にこのフォーラムにも関与した。これら二つの事業を通じて痛感したことは、「日本のODAも含む国際協力面で必要とされる人材は、国際経験、ビジネス経験、起業マインドを

持ち、これらを国際社会の貢献に活用できる人材、言い換えればABIC的人材である」ということである。その意味からも、ABICのますますの発展を祈願している。



ユドヨノ大統領表敬 筆者（左）

## ODA関連

## ビクトリアの滝と銅の国、ザンビアで技術指導の2年間

JICA海外シニアボランティア ザンビア電気設備

はた こういち  
畠 公一  
(元オムロン)

JICAシニア海外ボランティアとしてザンビアに派遣されて間もなく2年になろうとしている。ザンビアは南部アフリカの内陸国である。現在は政情も安定しており、世界三大瀑布の一つ、ビクトリアの滝（幅1,700m、落差120m）写真①以外には観光資源も乏しいといふことで日本マスコミに載ることはほとんどない。また地下資源も銅を除いては何もない。



写真① ビクトリアの滝

だから日本との経済交流も少なく、総合商社の事務所もない。ということで日本では知名度が低いが、JICAが入ってからはすでに37年になる。

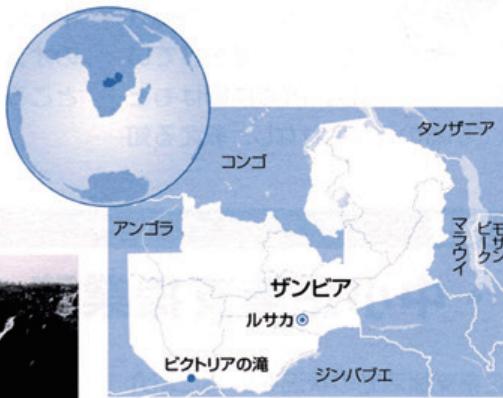
ザンビアは、1964年独立するまでは北ローデシアと呼ばれていた。この名はイギリス国王から開発利権を買った実業家、ジョン・セシル・ローズの名に由来するものである。ちなみに南ローデシアは1980年独立してジンバブエとなる。

私が住むザンビアの首都ルサカは、南緯15度25分付近で南回帰線よりはるかに赤道に近い所である。これから想像すると相当暑いように思われるが、実はそうではない。標高が1,200mと高くしかも湿度が低いため、いわば高原性気候で意外に過ごしやすい。日射しがきついので直射日光を浴びると相当暑いが、日陰や屋内は涼しい。だから我が家にはエアコンはおろか扇風機もない。防犯上窓を閉め切って寝るのだが、暑くて寝苦しく感じるのは真夏（10月下旬頃）の2週間程度である。

ザンビアの主食は“シマ”といってトウモロコシの粉（ミルミル）をお湯で練り団子状にしたものである。ザンビア人はこれが大好きでシマを食べないと食事をした気分になれないと言う。しかしシマの歴史はそれほど古くはなく、以前はキャッサバ（タピオカ）などを主食



写真② 主食のシマ（左）、トウモロコシの粉（ミルミル）をお湯で練り団子状にしたもの



コンゴ  
タンザニア  
アンゴラ  
マラウイ  
ザンビア  
ルサカ  
ジンバブエ  
ビクトリアの滝

にしていたようだ。代表的メニューは“シマ&チキン”で、日本流に言えばチキン定食。写真②左の白いのがシマ、右がチキンを煮たものに野菜が添えてある。このチキンがビーフになったり、フィッシュになったりするが、どこへ行ってもほぼ同じメニューが出てくる。この写真は赴任先の学校の食堂で撮ったもので約180円。それでも現地の低賃金労働者にとっては払えず、ほとんどの人が昼食抜きである。

写真③は郊外の平均的な台所。都心を除くとまだ電気の無い家が多く、庭に石を並べただけのコンロでシマを作っている。



写真③ 台所でシマを作っているところ

燃料は薪または炭を使うが炭代と灯り用のろうそく代を合わせると電気代より高くつくそうだ。

市内と近郊の公共交通機関は、写真④のようなミニバスである。定員10数人のマイクロバスで、そのほとんどが日本から輸入した中古車である。ミニバスの台数は多く、主要路線では列をなして走っている。しかし路線は許可制で限られていて、市の中心部から放射状に走っているので乗り換え



写真④ 公共交通機関はミニバス

を必要とする場合が多く、割りと高くつく。乗用車も90%が日本の中古車だ。もとイギリスの植民地であったため、車は左側通行なので日本車は好都合なのだ。

最後に私の仕事を紹介する。配属先は科学技術職業訓練省傘下にある職業訓練校で、内容は日本のポリテクセンタ



写真⑤ レクチャーハへの指導

もとのシラバスに含まれているのだが機材なし、教える知

一または専門学校に似ている。高校卒業者を対象とし就学期間2年である。その電気設備科でプログラマブル・ロジック・コントローラ（PLC）の技術指導をしている。PLC技術はもと

識なしで放置されていた。そのため現在レクチャーハに対する個人指導と、学生に教えるための教材作りに追われている。

しかしレクチャーハは約束の時間には遅れて来るは、連絡も無く平気で欠席するは、でなかなか思うように進まない。これがザンビア流かと半ば諦めながら、2年間の任期中に何らかの足跡を残せたらと思っている。写真⑤は自分のオフィスに二人のレクチャーハを呼んで特訓をしているところである。

(2007年9月筆)

## 自治体・中小企業支援

# 地方自治体・中小企業支援業務 あれこれ

最近の自治体・中小企業支援活動の状況を2、3ご紹介する。

### 1. 自治体支援の状況

現在、ABICは、4自治体と6件の年間業務委託契約を締結し、また約15の自治体、公共団体との間で支援・協力関係を持ち、多方面にわたる活動を行っている。

自治体・中小企業支援に際しABICに期待されているのは、ABIC会員の知識・経験・人脈をベースとした販路開拓支援・国際化支援、企業誘致支援に集約されているといえる。

通常、自治体への支援は予算措置の枠内で行うが、毎年の予算確保は難しく、1年限りの支援で終わってしまうこともある。まず道筋をつけて、後は企業の自己負担で取り組むよう指導しているようであるが、企業側も余裕がなく、また費用対効果の問題もあって簡単には進まない。企業が費用を負担しても支援継続を依頼されるよう、一層親身になってアドバイスをすることが望まれる。

#### (1) 販路開拓支援

比較的遠隔地にある企業は、首都圏の巨大な市場への参入を希望し、管轄する自治体も地元経済の活性化のため、首都圏での販路開拓支援を積極的に進めているところが多い。よほど特殊性のある商品でなければ市場参入は簡単ではないが、それでも営業力、人脈を活用した販路開拓の効果は侮れない。西日本のある自治体において、地元企業の首都圏進出や商品販路開拓を後押しするため、ABIC会員複数名がナビゲーターとして採用され、首都圏でのマッチングや展示会および地元での相談会に注力しており、その成果に期待がかけられている。

東京都でもビジネスナビゲーター制度があり、総勢60名のうち10名のABIC会員が都内中小企業の製品を首都圏で販路開拓するため活動している。

#### (2) 国際化支援

上記のような東京都のビジネスナビゲーターのケースもあ

るが、通常、首都圏内の自治体による企業支援は国際化支援のケースが多い。海外進出、販路拡大等のためパンフレット、ホームページ等の外国語訳、輸出手手続き、海外市場状況等の解説、海外同行出張等々でABICから適材を紹介している。1日のレクチャーで終わるものから、長期にわたって支援するものまで多岐にわたっている。今年3月には、40名のフランス農業ミッションが来日し、自治体の要請を受けて4名のABIC会員が事前の受け入れ準備からミーティング、農場視察など全行程にアテンドし、通訳支援を行ったケースもあった。

#### (3) 土地活用のため企業誘致

多くの自治体で開発した工業団地への企業誘致活動の中でも外資系企業の誘致を進めている自治体からは、商社OBの多いABIC会員の知識、人脈が頼りにされている。

千に一つといった確率の活動であるが、正式にアドバイザー等の委嘱を受けたケースや、登録制で仕事を請け負い、成功報酬・出来高払い形式のものも含めて、10数名の会員が地道な活動を続けている。自治体の期待に沿えるよう、会員各位の引き続いてのご尽力をお願いする次第である。

### 2. 企業よりの求人

ABICのホームページを見て直接求人の問い合わせをしてられる企業も増えている。概して企業の経営面への参画を希望するもので、中長期の雇用契約になることから、年令制限のほか、個人経営者との相性の問題等が重要となる。会員各位が極力多くの機会を捉えて活躍していただけるよう頑張っている。

求人案件のほとんどについて会員各位から手を挙げていただいているが、応募がなく断念したケースもある。最近の例では、①工場の現場における金属加工の設計・製作のエキスパート②橋梁など大型構造物の溶接・設計技術者、という求人であったが、残念ながら応募者は皆無であった。メーカー出身で技術系の会員登録も増えてきているので、将来はこの

ような依頼にも応えられるようになることを期待している。

### 3. 適材の検索作業

昨年初め、会員各位のお手数を煩わしたが、会員登録情報について新たな項目のアンケートを実施してデータベースを更新し、よりきめ細かな検索が可能となった。とはいえる求人内容は千差万別で、現システムでも完璧とはいがたい。極力条件に合致する会員を検索の上、募集メールの発信に努めているが、関係がないような募集案内をお届けすることがあるやもしれず、今後ともデータベースの改善に努めたいと思っている。多くの会員各位にご案内をお届けしたいと思う一方、関係がないようなメール配信は迷惑となるので極力避けたいと思うこととのジレンマである。

なお、上記会員再登録の未了やメールアドレス変更未通

知の方は、この機会に是非事務局への通知をお願いしたい。

ABICの自治体・中小企業支援活動は、現在佐藤コーディネーターと二人で手分けして担当しているが、お蔭さまで順調な成果を上げている。

活動の参加延べ人数の推移は、05年度98名、06年度147名、07年度は4~9月の上期実績で既に139名に達している。一部例外を除いてあるが、どのような分野でも依頼に応ずることができる会員を擁するABICは、大変な頭脳集団であると個人的にも自負している。

会員各位のご期待に沿えるよう、今後とも鋭意努めいく所存である。一層のご協力をお願い致したい。

(中小企業支援担当コーディネーター 高廣 次郎  
たかひろ じろう  
元三菱商事)

## 教 育

## 大学講座

# 2007年度大学・エクステンションセンター等 講師勉強会を開催

ABICでは発足以来、大学やエクステンションセンター等の社会人講座へ数多くの会員の方を講師として派遣している。派遣先は年々拡大傾向にあり、講座内容も多様化してきている。2007年度は講座実施コマ数が1,100コマ(90分1コマ換算)を突破し、昨年度の3割強増加する見通しである。

これもひとえに、従来講師として出講していただいた会員の皆様のご尽力の賜物であるといえる。さらに今般、比較的最近会員となられた方々にも新講師として活動していただるために、7月17日(火)、日本貿易会大会議室において掲題勉強会を開催した。

ABIC入会時のアンケート項目で、活動希望分野の内、「大学等での講師」に丸印をしていただいた方、あるいは本年度新規に講師を引き受けいただいた方々24名の参加を得た。勉強会の次第は、以下の通り。

1. 挨拶 名鏡 敬治 (ABIC事務局長)
2. 大学講座コーディネーター自己紹介
3. 講座提供の現状  
布施 克彦 (大学講座コーディネーター)
4. 面白い講義の仕方 萩原 良信 (LEC大学教授)
5. 大学・学生の現状、講師としての注意点  
谷川 達夫 (大学講座コーディネーター)
6. 教室でのプレゼンテーション  
猪狩 真弓 (大学講座コーディネーター)
7. コーディネーターの感想  
森 和重 (大学講座コーディネーター)
8. ディスカッション

### 3. 「講座提供の現状」

ではどのような大学やエクステンションセンター等で、どういうテーマの講座を受注しているかなどの説明、4. 「面白い講義の仕方」では、ABIC会員でもあり現在LEC大学専任教授としてご活躍で、教員採用基準などの知識をお持ちの萩原氏が「現代学生気質」「プロの講師としての心構え」「講義評価基準」についての講演を行った。5. 「大学・学生の現状、講師としての注意点」では大学・学生の現状説明と共に、商社退職後に講師としてデビューに至るまでの体験談を披露し、6. 「教室でのプレゼンテーション」とはどのようなものかについてプレゼンを行い、講師経験者が作成したパワーポイント資料等も紹介した。7. 「コーディネーターの感想」では、会員の方々を講師として派遣するコーディネーターとしての感想や、実際に講師として出講してきた際の経験談、今後の講師候補の方への要望などをまとめてお話しした。



ABICでは継続して毎年講座を受注している大学等が多く、さらに近年では個別大学との包括提携を結んでおり、講座数は益々拡大傾向にある。従来ご活躍いただいている会員の皆様に加え、新しく会員となられた皆様にも講師として活動の機会を得ていただきたく、今回の勉強会がそのきっかけとなれば幸甚である。

(大学講座担当コーディネーター 猪狩 真弓元三井物産)  
いかり まゆみ

## 園田学園女子大学シニア専修コースでの講座、3年目を迎えて

ABICでは、2005年度から園田学園女子大学の生涯学習センター「シニア専修コース」授業科目の一つである「比較生活文化研究」講座を担当してきた。

この講座の狙いは“世界の人々の暮らし、文化、価値観等について、我々ABIC会員がオムニバス方式でそれぞれの駐在経験をベースに講義し、改めて日本社会や日本人の価値観や生き方を考える”ことにあり、24講座を3年間好評裏に続けている。

本年度より上記に加え、下記3講座が新設され、ABICが担当することとなった。

1. 「現代世界の諸問題—地球環境問題」(前期13講座)
2. 「現代世界の諸問題—世界を揺るがす主要国・資源」(後期12講座)
3. 兵庫県立武庫荘総合高等学校・園田学園女子大学 高大連携プロジェクトの内5講座(8月上旬の夏休み期間)  
上記1.は高田さんが、2.は「BRICSと資源問題」を中心として石油、食料、水問題等を12名の会員がオムニバス方式で受け持った。また3.については下記5講座を4名が各自2日間に分けて180分担当した。

- ①自然・環境問題と科学技術との関り
- ②食品表示について学ぶ「消費期限」「賞味期限」
- ③お金と経済
- ④国際人とは
- ⑤海外とのビジネス。

以下は、高田講師と徳田講師の感想である。

(赤田 堅 関西デスクコーディネーター 元丸紅)

### 新設の「環境講座」で講義 —学外見学の概要

たかだひろむ  
**高田 弘** (元三井物産)

園田学園女子大学シニア専修コースに、今年からABIC担当の「環境講座」が新設された。タイトルは「現在世界の諸問題(I) 地球的視野から見た環境問題」と決まり、本年前期4~8月の間で合計13回(講義10回・学外見学3回)、地球史の中での人類の位置付けから始め、環境関連の近代世界史・国際関係・温暖化を中心とする個別環境問題、身近な環境問題などを網羅して、総合的に環境を考える構成とした。

なお余談だが、同大学はテニス部も有名で伊達公子などを輩出している。

紙面の都合もあり、その中の学外見学の概要を記述したい。

#### 1. 大阪市舞洲ゴミ処理工場(ゴミ焼却・破碎工場)

この工場の最大の特徴は、オーストリアのファンデルトヴァッサー氏による工場外観を含めた設計である。過去のゴミ焼却工場の概念を打ち破り、まるでおとぎ話に出てくる夢の国のようなデザインの工場となっている。当然のことながら、子供の見学も想定しており、随所にそのための展示・説明がなされている。正に「百聞は一見に如かず」、大阪訪問時には見学をお勧めしたい。JR大阪駅から桜島線「桜島駅」、シャトルバス約15分「環境局前」下車。

#### 2. 滋賀県高島市地下湧水活用の風土

高島市は滋賀県・琵琶湖西岸の比良山系の麓に位置する。同市針江地区の地下には安曇川の伏流水が豊富に流れおり、約20m掘削すればきれいな水が湧き出し、各家庭に“カバタ”(川端)と呼ばれる水汲み場がある。千年以上の昔から上水道として利用されている。周りの水郷の景色と相俟って、春夏秋冬それぞれ特色があり、えもいわれぬ風景・風情を醸し出す。最近ではNHK TVでの放映の影響もあり、全国からの見学者が引きも切らない。最寄り駅はJR湖西線「新旭駅」、徒歩15分ほど。(添付写真参照)

#### 3. 松下電器エコテクノロジーセンター家電廃棄物回収・処理工場

家電リサイクル法に基づく、TV・冷蔵庫・洗濯機・エアコンの廃棄物回収・処理工場。このところの回収非鉄金属の価格高騰もあり、最近では採算も向上している模様。我々の使用済み家電4機器の廃棄物処理で見事に回収処理され、事業化されていることに感心させられる。金属類やプラスチックなどが再生原材料として活かされ、新製品に生まれ変わっている。法的措置も絡むが、今後はその他の電気機器への対象拡大を期待したい。所在地は兵庫県加東市。大阪駅から西日本JRバス「竜野社」下車、タクシー約15分。

この環境講座には我々と同年代のシニア合計16名(男性9



2007-6-9 外川端

名、女性7名）が参加し、毎回熱心に聴講・見学してくれた。私から聴講生に特に強調したのは「着眼大局、着手小局」、即ち環境問題は「世界的規模で考え、身近で行動して欲しい」ということである。各聴講生のサークル活動仲間やお孫さん達に、この講座で学んだことを折に触れて判りやすく話して、環境意識を広げるよう行動して欲しいと希望した次第。また学外見学が好評だったことを踏まえ、来年も本講座が継続される場合は、見学訪問先を増やす事も検討課題である。

なお上記見学先はいずれも予約が必要、連絡先は各ホームページに記載されている。

## シニア専修コース講座講師体験記

とくだ こうじ  
徳田 浩次（元丸紅）

9月28日に園田学園女子大学シニア専修コース授業に講師として派遣された。授業科目は「現代世界の諸問題（世界を揺るがす諸要素）」ということで、私は「原油価格の歴史と石油市場の変遷」と題して、米国で石油産業が起こったと言われる1860年頃から約110年の間、ほとんどの期間1バレル当たり1~3ドルだった原油価格が、第一次石油危機



(1973年) を契機として上昇に転じ、最近の約80ドルを超えるレベルまで暴騰した原因は何なのか、またその背景にある石油市場はどのようなものだったのかについて話をした。

講義は私にとって初めての経験であったので少し不安はあったが、園田学園女子大学生涯学習センターの松成部長から丁寧な説明を受け、また取り上げるテーマについては自由に選ばせていただいたので、昔現役だった頃の出来事を含め、時系列に沿って歴史をたどる準備作業は楽しいものであった。

当日、20数名の受講生たちは私とほとんど同年代と思われ、テーマについても私より深い知識をお持ちの方もおられたかとも思うが、熱心に聞いていただいたことを感謝する。90分という時間は長いようで短く、項目ごとの時間の配分に苦心したが、特に実地の体験談には時間をとられがちで、予定していた項目の一部を紹介できなかったのは残念であった。

それにしても講義の行われた9月に入ってから、原油需給の国際的ファンダメンタルズには何の変化も見られないのに、原油先物価格が歴史的高値を何度も更新したのには驚いた。

巨額の投機資金が先物市場に流れ込んで相場全体を押し上げ、「石油市場のカジノ化」と言われる昨今、例えば株式投資だったら直接利害を受ける人は投資家で、株をやらない人にはまず影響はない。しかし、原油という公共性の強い商品では、石油の実需には一切関係がなく、ただ電子端末を凝視しながら、ひたすら投資リターンを追求するトレーダー達の先物市場での取引で決まる原油価格の後ろに、何千万人、何億人という消費者の実生活が繋がっていると思うと、それは紛れもない現実であると知りながらも、旧オイルマンのはしきれの一人として、私は何ともやりきれない思いがする。

## 教 育

## ABIC・関西学院大学共同プロジェクト

### 関西学院大学、青山学院大学とのABIC高大連携プログラム（国際理解教育）「日米高校生交流の集い」

ABICは関西学院大学（7月27日、28日）、青山学院大学（7月30日、31日）と高大連携プログラム「日米高校生交流の集い」を開催した。

日米相互理解が重要性を増す今日、次代を担う日米の高校生が対話と共同生活を通じ、異文化の壁を乗り越えて相互理解を図るのが目的である。

米日財団と日本貿易会の支援に加え、関西は米国総領事館、民間国際教育交流団体のAFS大阪事務所、関東は米国大使館・広報文化交流部、AFS日本協会が協力団体で参加了。

関西では：関西学院大経済学部神崎教授と大高教授の指導

で、「本音で語る日米の国と国民性に関する長所と短所」を主題とし、「日米の国と国民性への相互理解の共通化を目指そう！」を標語とした。

参加した高校生は、兵庫県立宝塚西高等学校、大阪府立箕面高等学校、私立啓明学院高等学校、関西学院高等部から日本人21名、AFS派遣米国人11名の計32名、大学生は関西学院大生9名、AFSボランティア2名の計11名。

初日は、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスに集合し、神崎教授の開会の辞、司会でグルーベル関西学院院長挨拶、ABICからは野村哲三（元三菱商事）会員の歓迎スピーチに続いて、カイザー米国領事館副領事が「日米文化比較」をテーマに、生徒との質疑応答形式でユーモアたっぷりの

話しをされた。その後、「スポーツ、映画、アニメなどの日米比較」「受験勉強、いじめ、登校拒否などの日米の教育問題」「ゴミ処理、地球温暖化と省エネなどの日米の環境問題」「戦争と平和、格差社会などの日米の政治・経済問題」の4チーム別に分かれてディスカッションを行った。夕食後は、教授、副領事も参加してゲームで懇親を深めた。

2日目は、チーム別のディスカッションを続け、発表会に備えた。その後、柔道、空手、弓道、茶道部を見学し、柔道部で組み手、投げ、茶道部でお手前を体験し、日本伝統文化に触れた。発表会は、神崎教授の司会で進められ、チームごとに英語で発表した。全体でのディスカッションを経て、審査委員長の野村ABIC会員から各チームの講評と結果の発表があり、最優秀チームには表彰および賞品が授与された。



参加者全員で記念撮影 青山学院大学にて



各チームの発表 関西学院大学にて



カイザー米国領事館副領事 (右端) と  
食事を共に

懇親会は、日本貿易会三幣常務理事ならびにABIC名鏡事務局長の挨拶の後、参加した高校生に修了書手渡され、高校生達絶賛の中で閉幕した。

**関東では：**初日は、丸紅(株)の協力により丸紅多摩センター研修所で、2日目は、青山学院大青山キャンパスで、「Be a messenger!! ~A letter to the president~」を主題に開催した。

参加した高校生は、東京学芸大学附属高等学校、横浜市立横浜商業高等学校、青山学院高等部、神奈川県立相模原高等学校、私立横須賀学院高等学校から日本人20名、AFS派遣の米国人10名の計30名。また、AFS留学経験がある東京外国語大学、立教大学、慶應義塾大学、昭和女子大学の学生5名と青山学院大学5名の計10名が企画から運営まで中心的役割を担った。

初日は、日本貿易会天野専務理事の挨拶、ABIC川本恒彦会員（元三菱商事）の「米国の高校生活」と題したスピーチの後、参加した生徒はドッジボールなどを行った。夕食後は5チームでスポーツ、文化、ライフスタイル、学校生活、食べ物に関してディスカッションした。

2日目は、米国大使館広報文化交流部トマス・ヒューストン氏が「The impression of Japan」と題して英語スピーチを行った後、「A letter to the president」を纏めるため、チームごとの意見を集約した。

懇親会では日本貿易会三幣常務理事の挨拶の後、チームごとに英語で発表し、来賓者の投票で学校生活をテーマとしたチームが最優秀に輝き、ABIC名鏡事務局長から表彰ならびに賞品を授与した。

最後に、実行委員長である青山学院大学仙波副学長が同じ釜の飯を食った経験を通して相互理解を深めよう、と英語で講評を述べ、参会者全員が記念撮影をして散会した。

(小中高国際理解教育グループ)

## 「高齢者雇用フェスタ2007」 に出展

10月3日（水）、東京ドームシティ・プリズムホールにて開催された「高齢者雇用フェスタ2007」に出展。「再チャレンジゾーン」に設置された専用ブースにてパネル展示し、ABICの活動紹介およびPRを行いました。今年で5回目になりますが、高齢者を活用するNPO組織の事例として出展の要請があり参加したものです。



## 教 育

## ABIC・関西学院大学共同プロジェクト

## 関西学院大学（产学共同）高大連携講座

8月6日（月）～9日（木）関西学院大学藤沢商学部教授を代表とする高大連携講座（科目名：講座003、アメリカ理解教育）が同学西上ヶ原キャンパスで開催され、ABICも同大学との産学共同のパートナーとして参画した。

本講座は、大学生と高校生がグループ研究を通して今のアメリカを正しく理解し、日本にとって重要なアメリカという国や国民に、より一層の興味を持つようにすることを目的とした。また、一つの共通問題を掘り下げて論理的かつ具体的に論じる能力とプレゼンテーション能力の習得も狙いとした。日本語だけでなく英語での講義もあり、英語能力を磨く誘引・刺激も与えた。

同講座は関学大でも初めて（おそらく日本で初めて）のユニークな教育プログラムで教員を高校に派遣するとか、高校生が通常の大学のオープン講座を受講するなどの従来型の“高大連携”とは一線を画したものである。

参加する高校生は、大学生とのディスカッションを通じて大学での勉強を模擬体験ができ、大学生は高校生を教える・指導することでプレゼンテーション能力の向上を目指すというメリットがあり、マンネリ化している“高大連携”に新風を投げかけたと言える。

この“高大連携講座003”は、昨年夏のパイロット授業を踏まえて、正規講座として開催されたが、講義内容・授業の進め方が斬新かつ充実していたので高校生・大学生に新鮮なインパクトを与えたと思う。

閉会式では、日本貿易会天野専務理事からの挨拶に続き、最優秀プレゼン賞の贈呈式が行われ、村田教務部長・鈴木教諭（宝塚西）・浜田教諭（箕面）・ABIC宇佐見キャップ各氏の挨拶後、藤沢教授から終了の挨拶があり、無事成功裡に終了した。

最終日には、日本経済新聞社の記者が取材に来られ、今回の高大連携講座のことが8月10日朝刊の「窓」に掲載された。



## 参加高等学校：

兵庫県立宝塚西高等学校、大阪府立箕面高等学校、啓明学院高等学校、関西学院高等部の4校

## 講義担当者：（敬称略）

関西学院大学商学部教授	藤沢 武史 =代表=
関西学院大学文学部准教授	新関 芳生
米国総領事館・副領事	海座 恵茶 (キャサリン・カイザー)
摂南大学専任講師	家本 真美
ABICよりの派遣講師	藤田 卓（元丸紅）
同上	村井 勝（元コンパック株）

## 講義タイトル：

- 1) Research on Visitors "Understanding of the Founder's Philosophy in CA Disneyland"…by Takeshi Fujisawa
  - 2) Hip-hop Music in the US…by Mami Iemoto
  - 3) Modern American Firms Corporate Strategy…by Msaru Murai
  - 4) アメリカ文学に見られるユニークさ…新関 芳生
  - 5) Major League Baseballの歴史的変遷と魅力…藤田 卓
  - 6) アメリカと日本の文化・習慣の違い…キャサリン・カイザー
- （関西デスクコーディネーター 大西 稔男 元三井物産）

## ABIC会員懇親会を開催

7月19日（木）18時～19時半、メルパルク東京にて会員懇親会を開催。ABIC正会員、役員、活動会員および日本貿易会関係者ら計137名の参加者を得て盛会でした。



## 留学生支援

# 交流館秋のフェスティバル2007

10月28日(日)、恒例の東京国際交流館の秋のフェスティバルが、前日の強風豪雨とはうって変わった快晴の下、来場者1,500人超を迎えて開催されました。

留学生による各国の名物料理の屋台、自国文化紹介のブース、アート作品の展示やダンス、音楽のパフォーマンスなどに混じって、ABICはバザーや茶道、華道、書道の体験日本文化教室で参画し好評を博しました。

日本文化教室の留学生は、茶道教室は御手前を、華道教室は即席生け花体験コーナー、書道教室は同じく体験コーナーで来場者に日頃の練習成果を発揮しました。書道体験コーナーでは参加者が例年の5倍近くの80名を超え、茶道は120名を超え、また生花体験コーナーでは瞬く間に用意した生花が底について、講師の先生もボランティアスタッフも、息つく間もないてんてこ舞いで、嬉しい悲鳴でした。

バザーは、商品のほとんどがABIC会員、日本貿易会お



よりメンバー会社社員の皆様方の提供によるもので毎回好評を博していますが、今回も大変な賑わいを見せ、売れ行きは上々でした。売り上げは交流館留学生の支援費用に当てられます。ご提供いただいた皆様に深謝申し上げます。

(留学生支援グループ)



## 書評

### 『預言者ムハンマド』

鈴木 紘司 著 PHP新書 2007年8月24日発行 價格：本体800円（税別）

イスラム世界を紹介するため精力的に啓蒙活動に努めているABIC会員の鈴木弘司（元住友商事）さんが、新たにイスラムの創始者ムハンマドの生涯を詳説した『預言者ムハンマド』（PHP新書）を発刊した。9・11同時テロ以来、イスラムは好戦的なイメージが強くなったが、本来は平和を愛する宗教であるとの思いから、イスラムを正しく理解する一助として預言者の人間的な側面に触れながら書き上げている。

中東の風景は、果てしない天空の下に限りなく広がる厳しい気候下の砂漠であり、夜には満天に星々がきらめく。星空を眺めつつ宇宙の秩序・規則正しさを認識し、唯一絶対神の存在を信ずる宗教が中東に生まれたことは不思議でない。砂漠の地でイスラムを興したムハンマドのイメージは図像化が禁じられているため想像しにくいが、本書では、聖典コレクションを読み込んだ著者が、預言者について詳しく解説している。これまで、中東やイスラムについて多数の本が出版されているものの、ムハンマド自身の生涯に関して記述した本はそれほど多くはなく、本書は易しい解説書となっている。只、人名や地名が多数記述され、且つ、似たようなカタカナ名であるため馴染みのない日本人にとって読み進めるのに苦労もある。イスラムや中東に関心のある方にお薦めしたい。



(ABIC 理事長 三幣 利夫)

私の  
ボランティア活動

# 日本での歩み

ツン メイファン

曾 美芳 (東京経済大学コミュニケーション学研究科コミュニケーション専攻・博士後期課程在籍中、ABICボランティアチームメンバー)

2005年4月、来日して間もない頃だった。「コミュニケーション学」専攻でありながら内向的で人とのコミュニケーションが苦手な私が不安な面持ちで川崎市の中原市民館の日本語教室に通い始めた。その日本語教師の米澤悦子さんは「コアラ：国際子育て広場」という団体の代表で、私を仲間にいれてくださった。

日本語教室に付属する保育の受け入れは2歳児からので、2歳未満の赤ちゃんの外国人のお母さんは教室にも来られない。長年様々なボランティア活動をしてこられた米澤さんは、家庭にしか居場所が無い外国人の嫁さんをどうにかしてあげたくて「コアラ」を作ったという。そして「どうにかしてあげたい気持ち」に惹かれたのが私の日本でのボランティア活動のきっかけとなった。

私は「川崎市ボランティアセンター」に登録して、色々な情報を仕入れ、学校生活の余暇を見つけては活動に参加した。そしてその全てが素晴らしい体験だった。例えば、「サポートセンターあおぞらの街」では、障害者の外出補助をする。初めは緊張と不安で一杯だったが、ヘルパーさんから多くを学び、コミュニケーションのとり方など大変勉強になった。純粋でひたむきな知的障害者と向き合っていると、相手への理解や尊重の気持ちが深まり、自分を高めてくれているのを実感する。

「あしたの会・かわさき」はインドの農村の女性の識字教育を中心とした生活向上プロジェクトを、募金活動などを通じて支援するが、私はバザーに参加し手作り工芸品の製作や販売を手伝っている。〈注①〉

「川崎外国人市民ボランティア(KFV)」は、中・小学生の国際理解教育、民族文化ふれあい事業、外国人市民生活相談、環境問題の講習会など幅広い活動があ



ABICの仲間と留学生家族育児・健康相談通訳サポート



ABICボランティア仲間と筆者（左から二人目）

る。私は多文化共生の討議や環境問題の研修、国際交流会などに参加しているが、市民祭のパレートにも参加させてもらった。〈注②〉

また地域の高齢者

を支援する「ハートフル川崎」では、私は例会に出たり、手作り作業や医療と認知症の講習などに参加している。そして2006年にABICの活動会員になってからは、留学生家族の妊娠・出産・育児・健康相談の通訳サポートや、入園・入学・通院の通訳サポートなど新たな経験をさせていただいている。

日本での留学経験は、私に社会貢献のチャンスを与えてくれ、生活に彩りを添えてくれている。ボランティア活動を通して、私はささやかなりとも人の役に立てる実感を実感し、感動をもらっている。そしてもっと何かやりたいとの思いに駆られる。友達を世界に広げ、協力しあう事の大切さや自分の持っているものを大事にしながら生き甲斐を見出して行くことの大切さなど、多くのことを学ばせてもらった日本の方々に深くお礼を申し上げたい。そしてそれらの事を母國の人々に伝えたいと思っている。

注① 「あしたの会・かわさき」

<http://members2.jcom.home.ne.jp/osamurak/index.html>

注② 「川崎外国人市民ボランティア (KFV)」

<http://www.kfv.jp>

## 会員入会のお願い

国際社会貢献センターの活動にご賛同頂き、会員として資金的援助をしていただける個人の方や企業、団体のご入会をお願い申し上げます。

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 一口 50,000円
		個人 一口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。	法人及び団体 一口 10,000円
		個人 一口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 一 一

### 正会員

団体・法人(16社)	(社名五十音順)
〈10口〉 (社)日本貿易会 豊田通商(株)	伊藤忠商事(株) 丸紅(株)
〈4口〉 株日立ハイテクノロジーズ	住友商事(株) 三井物産(株)
〈2口〉 稲畑産業(株)	長瀬産業(株) 阪和興業(株)
〈1口〉 協同木材貿易(株)	興和(株) JFE商事ホールディングス(株)
個人(6名)	(敬称略・入会順)
池上久雄	寺島實郎
小島順彦	宮原賢次
吉田靖男	岡素之

### 賛助会員

法人(2社)	(社名五十音順)
(有)イーコマース研究所	キーリサーチネット(株)
<b>個人(316名)</b>	
下記は2007年7月以降ご登録お申し込み頂いた方です	

〈5口〉 北條弘司
〈2口〉 志岐眞弓 福田洋子
〈1口〉 石川清 今井宏 山内幸雄

### 活動会員 1,728名

(2007年10月31日現在)

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mailアドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。  
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5979